

都市再生整備計画 事後評価シート
名瀬中心市街地地区

平成24年3月

鹿児島県奄美市

様式2-1 評価結果のまとめ

| 都道府県名 | 鹿児島県 | 市町村名 | 奄美市 | 地区名 | 名瀬中心市街地地区 | | | 面積 | 43 ha | | | | |
|--------------------------------------|--|----------|--|--------------------------|---|---|--|--|--|--|--|--|-------------|
| 交付期間 | 平成19年度～23年度 | 事後評価実施時期 | 平成23年度 | 交付対象事業費 | 1,076 百万円 | 国費率 | 0.4 | | | | | | |
| 1)事業の実施状況 | 当初計画に位置づけ、実施した事業 | | 事業名 | | | | | | | | | | |
| | 基幹事業 | | 公園(みかた公園、かねく公園)、地域生活基盤施設(まちかど広場)、高質空間形成施設(道路修景整備)、末広・港地区土地区画整理事業(都市再生) | | | | | | | | | | |
| | 提案事業 | | 空き店舗等整備事業、まちづくり活動推進事業(空き店舗活用事業、イベント開催等、まちづくり組織づくり) | | | | | | | | | | |
| | | | 事業名 | | 削除/追加の理由 | | 削除/追加による目標、指標、数値目標への影響 | | | | | | |
| | 当初計画から削除した事業 | | 基幹事業 | | 公園(あさひ公園、みなと公園)、地域生活基盤施設(情報板、案内板)、高質空間形成施設(永田川左岸及び右岸道路における修景整備) | | 【公園】地元要望に対し、十分な検討を行なった上で整備に着手するため、次期計画へ延期。 【情報板、案内板】末広・港地区土地区画整理事業の進捗に併せ整備するため、次期計画へ延期。 【修景整備】永田橋・末広市場の再生事業と併せた整備が効果的と判断し、次期計画へ延期。 | | これら事業の削除は、数値目標「来街者数」「空き店舗率」等に対し、影響は小さいと判断し、目標及び指標は据え置く。 | | | | |
| | | | 提案事業 | | 地域創造支援事業(永田橋・末広市場再生事業) | | 区画整理の進捗に合わせて2期での事業着手を予定していたAiAiひろば整備を前倒しで実施するため、本事業については次期計画へ延期。 | | 本事業の前倒しに合わせて、AiAiひろば整備事業が追加されたことから、指標「来街者数」への影響は相殺されるとみなし、目標及び指標は据え置く。 | | | | |
| 新たに追加した事業 | | 基幹事業 | | 高次都市施設(観光交流センター、AiAiひろば) | | 次期計画での整備予定であったが、区画整理事業の進捗により前倒して整備可能となった事により追加。 | | 本事業の前倒しに合わせて、永田橋・末広市場整備事業が次期計画へ延期されたことから、指標「来街者数」への影響は相殺されるとみなし、目標及び指標は据え置く。 | | | | | |
| | | 提案事業 | | 各種調査事業 | | まちづくりに対する機運の高まりを受けて、支援内容を追加。 | | 数値目標「まちづくりの活動の参加数」に向けプラスの影響があるが、目標も指標も据え置く。 | | | | | |
| 交付期間の変更 | | 当初 | 平成19年度～23年度 | 交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響 | | - | | | | | | | |
| | | 変更 | 平成 年度 ~ 年度 | | | | | | | | | | |
| 2)都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況 | 指標 | | 単位 | 従前値 | 基準年度 | 目標値 | 目標年度 | 数値 | | 目標達成度 | 1年以内の達成見込み | 効果発現要因(総合所見) | フォローアップ予定時期 |
| | | | | | | | | モニタリング | 評価値 | | | | |
| | 指標1 | 来街者数 | 人/日 | 15,822 | H17 | 16,000 | H23 | 14,828 | 11,829 | △ | あり なし ○ | 奄美豪雨や長引く景気低迷等により、事業開始以降、減少傾向に歯止めがかからず状況にあり、目標未達成となった。1年後においても、指標達成は困難であると判断した。 | - |
| | 指標2 | 空き店舗率 | % | 12.1 | H18 | 8.0 | H23 | 16.9 | 12.5 | △ | あり なし ○ | 外的要因(奄美豪雨、長引く景気低迷等)により、新たな空き店舗の発生に歯止めがかからず、目標未達成となった。1年後においても、指標達成は困難であると判断した。 | - |
| 指標3 | まちづくりの活動の参加数(延べ人数) | 人/年 | 90 | H17 | 450 | H23 | 410 | 534 | ○ | あり なし ○ | 各種まちづくり活動への市民の積極的な参画を支援したことにより、市民のまちづくりに対する機運が向上し、目標達成に至ったと判断した。 | 平成24年4月 | |
| 3)その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況 | 指標 | | 単位 | 従前値 | 基準年度 | 目標値 | 目標年度 | 数値 | | 目標達成度 | 1年以内の達成見込み | 効果発現要因(総合所見) | フォローアップ予定時期 |
| | | | | | | | | モニタリング | 評価値 | | | | |
| | その他の数値指標1 | イベント参加者数 | 回/年 | 76 | H18 | | | 998 | 986 | | | 中心市街地の賑わい再生を図るため、様々な主体が積極的な取り組み(イベント)を展開したことにより、イベント参加者数の増加につながったと判断した。 | 平成24年4月 |
| その他の数値指標2 | 空店舗活用数 | 事業者 | 0 | H18 | | | | 20 | | | 中心市街地の賑わい再生を図るため、様々な主体が積極的な取り組み(空店舗活用)を展開したことにより、空店舗活用数の増加につながったと判断した。 | 平成24年4月 | |
| 4)定性的な効果発現状況 | 奄美市中心市街地活性化基本計画策定に向けたアンケート調査(平成22年9月実施)において、「最近では以前に比べて、観光客も増えてきているように感じる」「(本計画により立ち上がった)土曜日のような催し物を増やしてほしい」「いろいろな行事があるので、参加して楽しく過ごしたい」といった意見も寄せられている。 | | | | | | | | | | | | |
| 5)実施過程の評価 | | | 実施内容 | | | | 実施状況 | | | | 今後の対応方針等 | | |
| | モニタリング | | 「通行量調査」「空き店舗調査」を毎年実施し、数値指標の達成状況を把握した。 | | | | 都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった | | | | ● ● ● | | |
| | 住民参加プロセス | | AiAiひろば等整備に関するワークショップや景観勉強会の開催、地域主体のイベント(やんご通り100周年記念事業、カンモレプロジェクト)の開催支援を行なった。 | | | | 都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった | | | | ● ● ● | | |
| | 持続的なまちづくり体制の構築 | | 今後の本地区のまちづくりの担い手を育成するため、「NPO法人まち色」の立上げ、活動支援を実施した。また、中心市街地の活性化に向けて「まちづくりの司令塔」としての役割を担う「中心市街地活性化協議会」を設置した。 | | | | 都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった | | | | ●まち色 ●中活 | | |
| | | | | | | | | | | NPO法人については、まちづくり活動の中心的役割を担うべく、組織力の向上や現在の活動継続に対する支援を行なう。また、中心市街地活性化協議会については、商工会議所、商店街、民間事業者と一体となって、中心市街地地区における活性化に向けた継続的な活動を展開する。 | | | |

様式2-2 地区の概要

名瀬中心市街地地区(鹿児島県奄美市) 都市再生整備計画事業の成果概要

| まちづくりの目標 | | 目標を定量化する指標 | | 従前値 | | 目標値 | | 評価値 | |
|------------|--|------------------------|-----|--------|-----|--------|-----|--------|-----|
| 大目標 | ～豊かな海や山の自然環境と賑わいと活気に満ちた中心市街地とが一体となる～ 島建ての ころときめく ティダのまちづくり | 来街者数 | 人/日 | 15,822 | H17 | 16,000 | H23 | 11,829 | H23 |
| | 目標① 「人と人」、「人と自然」の交流による『奄美・名瀬らしい』中心市街地としての賑わいの再生 | 空き店舗率 | % | 12.1 | H18 | 8.0 | H23 | 12.5 | H23 |
| | 目標② 魅力ある暮らしの場所の形成と定住人口の増加 目標③ 中心市街地の快適性・利便性向上による、「行きやすい」、「わかりやすい」、「利用しやすい」商業空間の形成 | まちづくりの活動の参加数 (延べ人数) | 人/年 | 90 | H17 | 450 | H23 | 534 | H23 |



まちの課題の変化

- ・商店街通りの修景整備を部分的に実施し、歩道のバリアフリー化と「奄美らしい」「名瀬らしい」景観形成に努めているが、ネットワーク全体としての対応が必要である。
- ・街なかの休憩スポットとなる「まちかど広場」を整備したが、全体的に回遊性が向上するような取組みが必要である。
- ・空き店舗の活用等を進めているが、未だ空き店舗率の改善は見られないため、経営者の育成や広報・周知活動の展開を図る必要がある。
- ・中心市街地のにぎわい回復や、経済、活力の向上、持続可能なまちの形成を図るため、街なか居住を進めていく必要がある。
- ・末広・港土地区画整理事業の推進により、にぎわいに満ちた中心市街地の形成に向けて、都市基盤・商業施設の再編を図る必要がある。
- ・既設の一部街区公園において、設備の更新(休憩施設の設置等)を行ったが、次期計画へ延期した公園も含め、その改善が求められている。
- ・整備した「AiAiひろば」をより多くの方々に利用していただけるよう、市民と一体で取り組む必要がある。

今後のまちづくりの方策 (改善策を含む)

- ・今回事業により、中心市街地における各種イベントが定着し、大勢の方々に参加していただいていることから、今後もその活動継続を支援し、より一層の市民参加と本市の活性化を目指す。
- ・魅力ある中心市街地の形成を図るため、個々の商店の魅力向上や、地域特性を踏まえた景観整備を促進する。また、魅力ある街なみ空間の維持・形成に向けたまちづくり活動(勉強会、説明会等)を展開し、市民、行政が一体となっておもてなし空間の形成を図る。
- ・歩行者の回遊性を高めるネットワーク整備の一環として、交流・滞留空間の整備や案内板、サイン等の設置を行う。
- ・熱意と独創性にあふれる事業者の創出・育成ならびに中心市街地や商店街の活性化を図るため、商店街の空き店舗で新たにお店を開こうとする人を対象に「チャレンジショップ支援事業」を実施する。
- ・街なか居住を展開するため、空き店舗を活用し、商店街に不足する公益性施設を創出することにより、中心市街地における賑わいの再生を図る。
- ・中心市街地において、にぎわいに満ちた交流空間の形成に向けて、都市基盤・商業施設の再編を目指し、1期目から引き続き、土地区画整理事業を推進する。
- ・歩行者の回遊性を高めるネットワーク整備の一環として、既設の街区公園においては、利用者ニーズに応じて、休憩施設の設置等、公園内の設備の更新・充実を図る。
- ・今回事業によりAiAiひろばを整備し、中心市街地における交流拠点として、または集客拠点としての役割が期待されるが、市民主体によるイベント等を開催し、更なる効果増大を図る。